

令和4年度第2回庄原市初任者研修会

令和4年8月17日（水） 庄原市比和自治振興センター 比和自然科学博物館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭4名、中学校教諭4名、養護教諭3名、主事1名】

【講話・演習】教諭・養護教諭対象「授業づくりについて～学習指導案の作成～」 庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

児童生徒に確かな学力を育成する授業づくりについて、講話・演習を行った。

- 学習指導案を作成する際は、単元観、児童生徒観、指導観が一貫した、つながりのあるものとなるようにすること。
- 児童生徒に付けたい力を明確にして、単元全体を見通し、1時間の授業が「点」で終わらないよう、単元の構成をしっかりと考えていくこと。

(参加者の振り返りより)

- 単元1つずつを点ではなく、線でつなぐことを意識して授業づくりをしたい。
- つまづきが大きい生徒をどのように指導、支援をするのか交流を通してヒントを得た。

【講話】「着実な実践を！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

学校は、子供たちにとって「希望」である。子供は、伸びたくて伸びたくて、学びたくて学びたくてたまらないと思っている。指導者自ら学び続ける姿勢が大切である。「指導力＝専門性×人間性＋教養」である。良き出会い、良き人間関係を大切に、学校・家庭・地域が一緒に行う教育活動を通して、「庄原で学びたい」と思われる教育を創造してほしい。



(参加者の振り返りより)

- 子供たちにとって学校とは、希望であり、友達とともに学び合い、成長することのできる場であると感じた。学校での活動を通して、一人一人の居場所となる学校にしていきたい。
- 学校での学びが子供の将来を大きく左右することを忘れず、「庄原で学んでよかった、この先生でよかった」と思ってもらえるよう、日々努力していきたいと強く感じた。

【講話・演習】「不祥事防止に向けて」

庄原市教育委員会 教育指導課 管理主事 伊澤 知弥

不祥事の根絶を目指し、事例を用いながら講話・演習を行った。

- 信頼され続ける教職員であるために、「自らも過ちを犯し得る存在」であることを自覚するとともに、不祥事を未然に防止する職場環境づくりに取り組むことが大切である。



(参加者の振り返りより)

- 決して他人事として捉えず、常に教育公務員であるということを忘れず行動していかないといけないと改めて感じた。また、学校内での環境整備ももちろんであるが、不祥事防止には報告・連絡・相談が必要であり、実践していく。
- 演習で不祥事による影響などを考えたことで、より自分事として捉えて考えることができた。不祥事を絶対に起こさないと改めて決意した今の気持ちを忘れずに、明日からの職務に臨みたい。

【施設見学】「比和自然科学博物館」

比和自然科学博物館 館長 進藤 眞基

進藤館長の説明を受けながら、比和自然科学博物館の展示見学を行った。



(参加者の振り返りより)

- 広島県や庄原市の生き物やクジラなど、子供に見せたいものがたくさんあった。モグラとネズミの歯の違いは、子供たちの歯の指導に取り入れたい。出張講座も紹介していただいたので、機会があれば利用したい。